

薬剤耐性研究センターの概要

平成28年4月に国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議にて、我が国において薬剤耐性対策を推進するにあたって、今後5年間で実施すべき事項をまとめた「薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプラン」が策定され、国立感染症研究所に薬剤耐性に関する包括的なシンクタンク機能を担う組織を設置することが明記された。

国立感染症研究所においては、アクションプランにおける役割を確実に実行し、薬剤耐性に関する国内外の実態調査や、耐性メカニズム、市場で流通している抗生物質製剤の品質検査、薬剤耐性対策に資する新技術開発、病院の感染症対策支援、薬剤耐性の研究に関するシンクタンクとしての情報発信を行う組織を整備するため、平成29年4月に薬剤耐性研究センターを新設した。

- 設置場所（今夏引っ越し準備中）
東京都東村山市青葉町4-2-1
（国立感染症研究所ハンセン病研究センター敷地内）

薬剤耐性(AMR: Antimicrobial Resistance)について

背景

抗菌薬等が効かなくなる薬剤耐性(AMR)感染症が世界的に拡大。公衆衛生および社会経済的に重大な影響を与えている。

一方で、新規の抗菌薬等の開発は近年停滞。
このままでは、AMRに対する対抗手段が枯渇。

国際社会の動向

2015年5月 WHO総会 AMRに対するグローバル行動計画を採択。

加盟国へ、2年以内に国家行動計画の策定・実行を要求。

2015年6月 G7エルマウサミット AMR対策を推進することで一致。

2015年5月 G7伊勢志摩サミット AMRへの対応強化が重要との点で一致

2016年9月 国連総会 AMRに関するハイレベル会合の開催

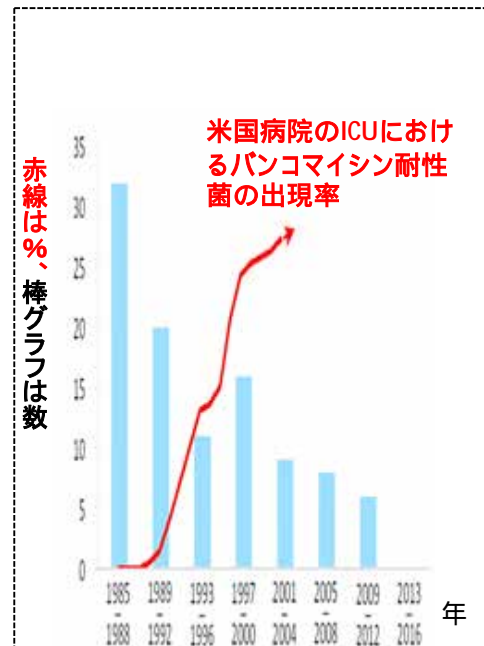
我が国の対応

医療、農畜水産、食品安全の各分野において、サーベイランス(耐性菌の監視)、抗菌薬の適正使用等の取組を実施。
我が国の行動計画を策定し、分野横断的に取組(ワンヘルス・アプローチ)を推進。

4月16日に、アジア太平洋地域の保健大臣らを招き、WHOと共催でアジアAMR東京閣僚会議を開催

G7伊勢志摩サミット議長国として、AMRについて国際協力を推進。

米国における新規抗菌薬剤数と薬剤耐性菌の出現傾向の推移



棒グラフ: 米国における新規抗菌薬剤数

出典: Schäberle TF, Hack IM, Trends Microbiol. 2014; 22: 165-7.